

第10回 多摩市自治推進委員会 要点記録

- 1 日時：平成29年12月25日（月）午後6時から午後8時
- 2 場所：多摩市役所3階 特別会議室
- 3 出席委員：和田委員長、西川副委員長、島野委員、高澤委員、小城委員、富田委員
- 4 議事：答申及び提言に関する検討について

1 開会

委員長 第10回自治推進委員会を開催する。

2 報告

委員長 本日の配布資料について、事務局より説明をお願いしたい。

資料1、2、参考資料1に基づき、事務局から内容について説明を行った。

本日は、これまでの議論を踏まえ、提言に向けての議論を行っていく。

提案等はあるか。

副委員長 地域活動に参加するきっかけとしては、口コミの影響が非常に大きいと思う。現在参加している人が楽しむことが出来ていれば、知人や友人を誘い、自然と輪が広がっていくと思う。また、やりがいや楽しさがありその人にとっての優先度が上がれば、同じ内容のことで負担感も下がる。負担感が下がれば他の人を勧誘することにもつながるのではないかな。

委員 団体向けの提言ができればよいのではないかなと思う。団体が考えていることと、市民が思っていることとのギャップを団体に伝えることで、市民の参加を促すきっかけになればと思う。

また、SNS等が活用されるなど電子媒体が普及している中で、ポスティングチラシは見てもらえないものなのではないかなと思っていたが、アンケートでは、実際に手に取って見られるものが効果的という結果が出ており、良い発見となった。

委員 市が発行している「地域デビュー手引書」を例に挙げると、市民向けの手引きとしては文字が多く、負担感があり、なかなか読んでいただけないのではないかなと思う。発信の仕方を工夫する必要があるのではないかな。

委員 イラストや挿絵等を増やす工夫をすると効果的ではないかな。

委員 行政の発行物等についても、情報はたくさん出ているが、なかなか見つけることが難しい。同じ情報であってもイラストを使用する等の工夫をすることで、情報が伝わっていくのではないかな。

また、今回のアンケート結果で、市民の情報収集方法は、年代によって異なる傾向がある。このことを考慮して提言していく必要があるのではないかなと思う。

委員 SNSと紙媒体での情報発信の仕方について、多くの団体は書き方を同じにして発信していることが多いのではないかなと思うが、発信する情報の媒体によって、読む世代も異なる場合があるため、読み手の年齢層等を意識して書き方を変える等の工夫も必要になるのではないかな。

副委員長 イベント一つを取っても、イベントを開催することが目的である場合と、イベン

トを団体の広報の場と捉える場合とによって、それぞれイベントの開催方法が変わってくる。

委員 情報の発信の仕方については、今期のテーマである「地域活動に関する気づきときっかけの仕掛け作り」の『気づき』の部分になるため、今回の提言の中に取り上げるべきだろう。

また、アンケート結果から市民と団体の考えのギャップとして提言するのは良いと思うが、すべての団体に当てはまるわけではないので、どう結論として出すのかもしっかりと考えていかないといけない。

委員 団体に向けた提言とする際に、ターゲットを絞って提言するのはどうか。アンケート結果の中に定年後に参加したいということや仕事・子育てが落ち着いてから参加したいという回答があった。具体的な手法は思いつかないが、「現在、仕事や子育てが忙しく参加できない」と回答した方でも、団体側が受入体制を工夫することで、「参加することができる環境が作れる」という提言を行っても良いのではないかと。

委員 定年後に参加したい方や仕事・子育てが落ち着いたら参加したいという方は、現在は個々の事情により参加できないが、いずれは参加の意思があるのだと思う。そうではなく、今期の委員会では、参加しない理由として、「団体の活動を知らない」や「関心がない」といった回答が多かったことから、そこにアプローチをしていく提言ができれば良いのではないかと思う。

委員 今回のアンケートに回答された方の中から、実際に「地域デビュー手引書」の掲載団体の活動に参加してもらって、参加された方や受け入れた団体の感想などを聞き、報告書としてまとめてみてはどうだろうか。

実際の団体の受け入れ体制も見る事が出来るので、良いのではないかと。

副委員長 自分の意思ではなく活動に参加している場合で活動内容が面白くなかった時、非常に負担感を感じる。動員制の場合、結果として、参加して良かったという気持ちが得られれば良いが、そうでない場合があることを考慮すると他のやり方が良いように思う。

委員 初めて活動に参加する場合は、輪に入れるかどうかという不安の気持ちが強いと思う。

委員長 アンケートの結果からもわかるように、団体は、活動内容を公表したり、活動時間や頻度を調整して、市民が活動に参加しやすいように工夫している。もし、市民向けに何かを提案をしたら、市民の方が思うほど団体の活動は不透明ではなく、具体的にこんな工夫や取り組みがされているという情報提供ができれば良いのではないかと。

副委員長 団体活動の経験から、活動を始めて3年ほどすると、メンバーが固まり新しい人が入りにくい環境になる。例えば、定期的に団体を解散して再度一から団体を作ると、新しい人が入りやすい環境が作れるのではないかと。

また、活動の中でイベントへの参加はしてみたいが、すぐメンバーになるのは負担という方も多いと思う。例えば、イベントのボランティアを募集する際に、活動内容や活動時間、期間を明確にする。また、その都度、参加の可否の判断ができる

状況を作ることで、参加につながりやすいのではないかと。何をするのかかわからないものに対しての抵抗は強いはずである。

また、イベントについても、参加できない回があったとしてもその都度ボランティアを解散して再度一からボランティアの運営体制を作ることで、参加への抵抗感が軽減されると思う。楽しいと感じれば、次のイベントにも参加したい気持ちになる。

委員長 団体が実際に行っている市民の受け入れ体制を作る等の工夫について、市民向けに発信できるような報告書にしても良いかもしれない。

今までの議論を踏まえると、団体に向けての提言を行うという形での意見が多いかと思うが、改めて今回の提言はどこに向けての提言となるのかを確認したい。

委員 団体向けの提言としたい。団体の情報の発信の方法について、どのような工夫をすれば市民に情報が伝わり、参加しやすい環境がつかれるかというような提言ができれば良いと思う。

また、団体をサポートし、市民が気づきやすい体制づくりについては、市へ提言したい。

委員 第五期委員会では、「たまおが行く」の報告書で市民が参加する目線での報告書となっている。今期では、団体向けの視点でどのような形であれば市民に参加してもらえるか、というような報告書としてみても良いのではないかと。「たまおが行く」がマンガ風のものであったので、今期も似たような報告書にしてみても良いのではないかと。市民へのアンケートの結果を踏まえて団体向けの報告書にすると良いと思う。

副委員長 「このような団体には参加希望者は来ない」といったような、マンガのようなものにしてみてもおもしろいと思う。これを見た団体が自分達の団体もこのようなことが起こっていないか気づききっかけになれば良いと思う。

委員長 確認になるが、委員会の成果物として、決まった形式はあるか。

企画課 特に決まった形式はないので、報告書でも提言書でも構わない。

委員 市民と団体にはアンケートに協力いただいたので、何かしらの形でフィードバックする必要がある。

団体向けのフィードバックとしては、冊子にするとしても10ページ程度と負担を感じない量とし、また図や絵を多くしてわかりやすいもので提言できたら良いと思う。

委員 市民に向けて何か提案するよりも、市民が自然に地域活動に目が向き、興味を持ってもらえるような提言を、団体や市へしたほうが良いと思う。

委員長 それでは、団体と市に向けて提言を行うこととし、団体に向けては、市民の受け入れ環境や団体の情報の発信の方法、運営体制等について提言し、市に向けては、市民へ伝わりやすい情報の発信の方法や団体と市民をつなぐサポート体制等について提言し、市民の地域活動に対する気づきときっかけとなるような内容としていく。

成果物については、団体へ配付し、今回の提言が数年後にどのような成果をもた

らしているかを測れるような形としたい。

また次回は、具体的な提言内容について議論したいと思う。

3 その他

企画課

次回、第11回自治推進委員会については、2月14日（水）午後6時から行う。
場所については、改めて連絡する。

4 閉会